

いつも知らずに帰ってない!?

京都 東山南部の歩きどころMAP

<http://kyoto-higashiyama.jp>

製作 京都・東山南部地域活性化委員会

東山南部の地域紹介

平安時代以前からはじまる、京都のはじまりと今を知る町

京都市東部にある、東山連峰と鴨川にはさまれた地域。鴨川から東山連峰に向かって緩やかに傾斜した土地は山林などの緑に囲まれ、豊かな自然に恵まれた市街地が南北に細長く広がっている。古くから、京都の歴史・文化の要所として位置づけられ、天皇家や豊臣家、徳川家など、時の権力者と深いかかわりのある寺社や、信仰の中心地も数多く残されている。

このあたりは、794年の平安建都以前より、古代朝鮮などから渡来した氏族・八坂氏の影響によって発展をはじめている。「八坂の塔」で知られる法観寺はその頃に建てられたといわれている。

平安時代になると、七条には後白河法皇の宮廷（御所）である法住寺殿が、六波羅（五条大路から七条大路一帯）には平家一族の邸宅が建てられた。三十三間堂が創建されたのもこの頃。政治の拠点として人々が集まるようになっていったのである。

やがて武士の時代へと移り変わると、鎌倉幕府の出入機関「六波羅探題」が置かれたり、桃山時代には豊臣秀吉によって一大伽藍が築かれるなど、京都の最も重要な町の1つとみなされていた。

江戸時代には住宅地としても注目され、豪商の屋敷や、清水焼の工房が建ち並んでいく。この時既に、現在見られるような町並みが形成されたのだと考えられている。

明治時代になると、京都もいち早く近代化を進めていた。その最たる象徴ともいえる帝国京都博物館（現在の国立京都博物館）がこの地に開館。東山が文化的な面でも重要なポジションを占めるようになったのである。

明治43年（1910年）には京阪電鉄が開通。大阪・天満橋～京都・五条間が結ばれ、鴨川沿いの地域だけでなく、京都の街が大きく様変わりする要因となった。

今日に至るまで、時代を超えて重要な地域であり続けた東山・南部地域。角を曲がるたびに奥深い魅力に出会えるこの町を、くまなく散策してみよう。

A 芸術品レベルの仏像彫刻ワールドへ！ 180分

寺院・神社が集まる京都。東山南部地域においては、行く先々で、国宝・重文クラスの仏像や彫刻に出会うことができる。

まず、豊国神社。国宝の唐門に施された「鯉」や「鶴」は、名工・左甚五郎によるもの。精巧な技に思わずため息。鶴はつがいで「夫婦和合」を表している。ちなみに、完全に仕上げた上と魂が入って飛び立ってしまうため、目が入っていない。鯉は「立身出世」を表す滝登りの様子。

次は1001体の千手観音立像と大きな千手観音坐像が並ぶ三十三間堂。観音様の顔はひとりひとり違っていて、「会いたい人によく似た顔が、必ずある」ともいわれている。

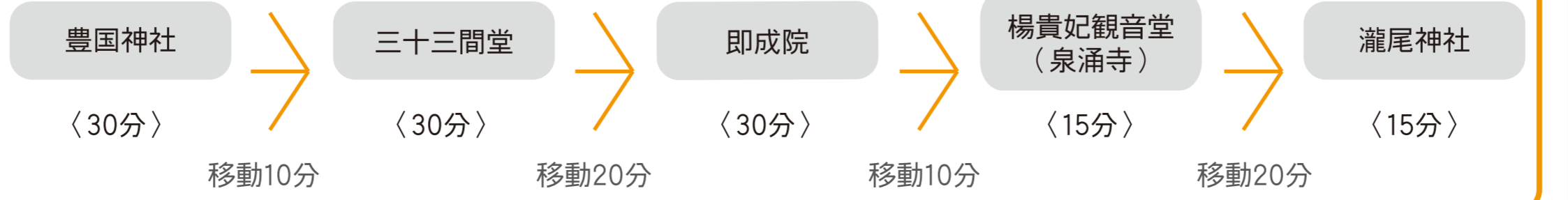
東大路通を南へ進み、泉涌寺道を上る。

即成院には楽器を奏で、歌う25の菩薩像が階段状に並んでいる。その楽しそうな様子を見ていると、心などひとときが過ごせる。

泉涌寺道を進み、泉涌寺境内にある楊貴妃観音堂へ。唐の玄宗皇帝が、亡くなった楊貴妃を偲んで作らせたという観音像で、思わずハッとするような美しさ。縁結び・美人祈願のご利益がある。

最後は瀧尾神社へ。拝殿の龍の彫刻もさることながら、本殿随所に施された木彫りの鳥獣・霊獣たちも一見の価値あり。

有名・無名の匠たちが、技を駆使して彫り上げた仏像や彫刻。芸術作品として見るのもいいが、作り手や制作依頼者の敬虔な思いも理解しつつ、じっくりと見て欲しい。



B 京都女子大学生 オススメの“京都らしさ”発見散歩 90分

京料理に欠かせない素材として忘れてはならない「麩」。京のまろやかな水に育まれた伝統的な京都の名産の1つ。半兵衛麩には種類や造形のさまざまな麩がそろっている。選ぶのも楽しいひととき。また、2階にあるお辨當箱博物館では、伝統技術を駆使したからくりやデザインの面白さに目を見張る。江戸時代に描かれた掛け軸の絵と、まったく同じお辨當箱が並べて展示されているのも面白い。

河井寛次郎記念館は、民芸運動にも深く関わり、用の美を極め続けた場所。素朴でありながら、便利さの延長戦にある美しさに、「本物のすこさ」を感じずにはられない。

最後に、自分のための一品を、古美術さわむらで探す。旅の記念でもあり、今日、自分が感じた感動を託せるような品が見つかるように…。

移動中に+α
クラフト雑貨あまた、金箔打あふらとり紙屋、ハイアットリージェンシー 京都で、カワイイ・オシシイものショッピングも楽しんでみて!

- 半兵衛麩
お辨當箱美術館
〈20分〉
- 移動10分
- 河井寛次郎
記念館
〈30分〉
- 移動15分
- 古美術
さわむら
〈5分〉

C 東山の古今を天より駆ける、龍の在りかをたどる旅 90分

古くから日本はもとより世界の歴史と文化の至るところで、龍竜の存在を確認することができる。ここ東山南部地域に点在する寺院・神社においても例外ではない。

泉涌寺や東福寺に水を司る神として「火事避け」の願いを込めて天井画として描かれたかと思えば、その躯体を余すかのように龍吟庵の石庭に踊り出る。姿を見せるのとはばかりのかと思いきや、瀧尾神社では無垢材だけをつないでつくられた、世にも珍しい寄木の龍として威風堂々とその姿を晒してくれる。

この地域に多くの龍の存在が確認できるのは、伏見の酒造りにも使われるほどの水脈の豊かさも一役買っているのかもしれない。そんなことを思い描きつつ、龍の駆ける古今の史跡をめぐってみよう。

移動中に+α
瀧尾神社の近くにあるわらび庵に立ち寄って、おいしいわらび餅を購入したり、青葉会館で絵付け体験して過ごすのもイイ!

- 瀧尾神社
〈10分〉
- 移動15分
- 泉涌寺
〈20分〉
- 移動25分
- 東福寺
〈20分〉

意外に知られていない!? 東山南部地域の観光スポットアクセス事情



製作：東山南部地域活性化委員会（事務局：ハイアットリージェンシー 京都） 製作協力：東山区役所
編集・撮影・デザイン：宮下直樹、佐々木歩 イラスト協力：京都女子大学 生活造形学科 出井ゼミ（イラスト：野口亜希）
このマップの著作権は東山南部地域活性化委員会に帰属します。お問い合わせ先：ハイアットリージェンシー 京都 (075-541-1234)